

令和3年2月19日

2月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では県北で積雪のため原木生産の少ない地区があるが、日光・鹿沼地区は順調である。大型製材工場では一定量の原木在庫を確保した模様であるが、荷は動いており、元落も極めて少ない。スギ材、ヒノキ材とも価格は落ち着き始めており、スギ材は例年の価格に戻りつつある。ヒノキ材は弱含みで推移。

群馬では積雪の影響はなく、原木不足は徐々に緩和されているが、原木入荷は例年に比べて少ない。製材工場の原木在庫も増加傾向にあるが、例年の約半分である。依然として細かい注文が多いため製材効率が悪く、通常約8割程度の生産である。製品市場からの引き合いが強い。地場では注文材が多い。製品在庫は少なく、特に羽柄材、割物類、仮筋交、筋交類の不足が深刻だが、徐々に緩和の兆しが見られる。注文材は値上げの方向である。全体的に安値の物はない。なお、現在の原木状況を見ると夏場の原木不足が懸念される。

2. 米材

カナダ私有林最大手の MOSAIC 社の伐採は徐々に本格稼働に近づいているが、依然在庫の積み上げには至っていない。中国からカナダへの引き合いが強まっており、中国向けソート材の価格が急騰している。米国では堅調な製材品需要を背景に製材工場の原木集荷は活発である。天候にも恵まれ出材自体は潤沢で原木は需給に見合った状態。米国・カナダの港頭在庫は低水準で推移しているが、輸出需要に見合う供給は行われている。米マツ IS 級並の2月積み対日輸出価格(推定)は\$960で3ヵ月連続の横ばい。米国の製材品市況は昨年9月に付けた最高値に迫りつつある。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(2/5)は\$945/M。現地製材品価格の高値張り付きは変わらず、日本向け数量は見込めない。中国、米国向けに価格が引っ張られており、価格を出し切れない日本は買い負けの状況にある。

12月原木入荷は115千 m^3 と一転して低調、1~12月累計で1,812千 m^3 (前年同期比25.5%減)。カナダの前年同期比69%減に対し、米国はほぼ前年並み。出荷は142千 m^3 、1~12月累計で1,847千 m^3 (同23.4%減)。在庫は減少し143千 m^3 、在庫率は0.96ヵ月。東京木材埠頭の1月入荷は12千 m^3 (前月比

8.8%減)、出荷は13千 m^3 (同15.2%減)、在庫は21千 m^3 (同0.8%減)。製品入荷は引き続き低調で在庫は月を追うごとに減少している

3. 南洋材

サラワク州では天候が再び悪化し、原木生産量は大きく落ち込んだ。12月にインド向けが殺到し、FOB価格は上昇したが、1月に入り高値を追えず、メランティは下落、クルイン、カボールは横ばい。PNGでは北側海岸が雨期により原木生産は低調。積荷不足で滞船が増えている。FOB価格は中国向けが\$5~10程度の上昇。ソロモンもサイクロンの停滞で天候が悪く原木生産も低調。荒天で荷役が進まず、インド向けが1船出航したのみ。中国向けは滞船。2月予想の原木入荷ゼロ、出荷5千 m^3 、在庫は4千 m^3 、製材品入荷は30千 m^3 。

4. 北洋材

産地では本来なら、冬伐り原木の入荷で本格的な製材生産となるが、新型コロナの影響が大きく、生産量は上がっていない。シベリア・極東とも中国向けが好調で価格の水準を押し上げている。アカマツ野縁製品の対日向け価格は急上昇で昨年夏の史上最高値\$550を超える勢いである。アカマツ原板も完成品の価格に引っ張られ上昇しており、警戒感がある。世界的な木材価格バブル化のあおりと中国向け好調により価格の上昇は避けられない状況にある。国内製材工場は2月積みまでの原板を確保しているが、数量確保には大幅な価格上昇を飲まざるを得ないだろう。米マツ小割の代替で一般ルートからの引き合いが急増、またDIY向けも巣ごもり需要により1月、2月と荷動きは活発である。現地挽きアカマツ野縁製品は上級から下級グレードまで全ての流通在庫が不足している。上級グレードは再び60,000円/ m^3 を突破。2月予想の原木入荷1千 m^3 、出荷3千 m^3 、在庫は10千 m^3 。製品入荷(東京+川崎)15千 m^3 、出荷15千 m^3 、在庫26千 m^3 。

5. 合板

合板用の国産材原木は寒波や積雪の影響で出材が遅れており、不足感が出ている。ロシア材は価格横ばいで大きな変化はない。米材は米国内、他国向けとも好調で価格は強含み。南洋材は現地の悪天候が続いているが、今のところ大きな問題はない。

12月の国内合板生産量は27.2万 m^3 、うち針葉樹合板は26.3万 m^3 、出荷量は26.3万 m^3 で在庫量は11.3万 m^3 となり、うち構造用合板の在庫は9.4万 m^3 と前月より微増となった。針葉樹合板は新規受注が少し落ち着き、逼迫感が和らいでいる。依然納期には時間がかかっている。価格も強気姿勢のまま。

輸入合板はほとんどの品目で品薄感が強く、価格も値上がり傾向が続いている。12月の合板輸入量は17.6万 m^3 と前月より増加したが、依然少ない輸入量が續いている。インドネシアでは悪天候の中、引き合いが強く原木の不足感が強くなっている。マレーシアでも各メーカーは原木確保に苦勞しており、限定的な合板生産量となっている。

6. 構造用集成材

1月のラミナ入荷はやや遅れていたコンテナもあったが、通常通りの量となった。2月は1月の遅れた分が入港するが、通常通りとなる見込み。3月以降はRWラミナの不足感が強まるだろう。ラミナの第1・四半期交渉は前回比20~30ユーロの値上げで250~260ユーロ/ m^3 が主流になる。供給量の減少は第2・四半期交渉でも続くと見られる。輸入集成材は第1・四半期交渉で2,000~3,000円/ m^3 ほど上昇している。輸入集成材の在庫量は減少しており、国内完成品とともに品薄感が出てきている。またRW柱材や桁材のオフア量は少ない。

7. 木材チップ

チップ原木の入荷はバイオマス発電、製紙用ともに引き合いは強い。降雪は多いが入荷は例年並み。解体材の入荷は新型コロナの影響による発生量の減少、大型バイオマス発電所の稼働、一部地域の降雪によりタイト感が非常に強い。製紙用の国内針葉樹チップは使用量は増加しており、増集荷基調。燃料用チップも各社増集荷の体制にある。

8. 市売問屋

国産材構造材の入荷は少ないが、材木店の仕事も少ない模様で細かい動きしか見られない。外材は米材、ロシア材、欧州材の入荷が少なく、15号地、川崎港では製品不足になっている。小規模な国産材製材所からも値上げを言っているが、値を上げてても原木不足で製品が出来てこない状況にある。

9. 小売

全体的に木材・建材類ともに不需求期にもかかわらず、品薄の品目が出ており、バランスが良くない。スギ、ヒノキ構造材は品薄状態となり、価格も上昇している。天候の影響もあり、先行き不透明感がある。外材構造材では米マツが不安定なため再び米ツガにシフトしてきている。梁材も米マツ、RW集成材ともに値上げとなったが、荷動きは活発といえず大きな影響は出していない。羽柄材では欧州材の品薄から間柱用はスギ材にシフトせざるを得ない状況も見られる。ロシア材の上級材や3m材は依然として少ない。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和3年2月18日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	↘	→	↘
北洋材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
南洋材	丸太	↘	↘	↘
	製材品	→	↘	↘

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸 入 量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	↗	↗	→

3. 価格動向

樹材種	形 状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m)2等	→
			スギ中丸太(3.65m)2等	↘
			ヒノキ柱材(3m)2等	↘
			ヒノキ中丸太(4m)2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD)10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→			
	ヒノキ土台角12.0×12.0×4m 特等	→		
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↗
			SPF 2×4 J-Grade R/L	↗
			米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→
米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	↗			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
			メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割(サバ州産)	→
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ(KD)30×40上級	↗
			アカマツ(KD)16×40上級	↗
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	↗
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↗
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗